

「交換留学生主導型『グローバル化支援インターンシップ』  
授業の開発」  
- 大学の国際教育と地域社会の相互支援 -

日本高等教育学会 第16回大会  
2013年5月25(土)&26日(日) [発表日:5月25日]  
会場 広島大学 (教育学部L講義棟)

恒松直美 (つねまつなおみ)  
広島大学 国際センター 国際教育部門  
Dr. Naomi Tsunematsu  
International Center: International Education Division  
<連絡先>  
TEL/FAX 082 424 6279  
東広島市鏡山1-1-1  
Email: [ntsunema@hiroshima-u.ac.jp](mailto:ntsunema@hiroshima-u.ac.jp)  
研究HP <http://home.hiroshima-u.ac.jp/ntsunema>

広島大学短期交換留学プログラム  
Hiroshima University Study Abroad (HUSA) Program  
プログラムHP [http://www.hiroshima-u.ac.jp/en/husaprogram\\_incoming](http://www.hiroshima-u.ac.jp/en/husaprogram_incoming)

▶ 1



▶ 2

発表の要旨

- 1) 「グローバル化支援インターンシップ」 - パラダイム転換  
交換留学生主導型の挑戦  
「顧客型」 → 「留学生主導型」 への転換
- 2) 理論的課題と実践
  1. 「日本人化」と「グローバル化」
  2. 目標設定 (Goal)
  3. エンパワーメント - 主体 Agency
  4. 学生参加型授業
  5. 期待マネジメント
    - A. 「インターンシッププレースメントテスト」 & 面接試験
    - B. 「社会体験者講話」 & PBL協同学習 など
    - C. グループ・ディスカッション
- 3) 実習

▶ 3

省察的实践 - 交換留学生の主体とインターンシップ

省察的实践 (reflective practice)

\* 行為を行いつつ、出来事について反省的洞察を行い、そのことが行為そのものの効果を支えているとするドナルド・ショーンの見解



\* 有能な実践者が行う知の生成 (knowing) とは？

- 「実践の中の知の生成 (knowing-in-practice)」
- 行為の最中に自らの直観的な知の生成を省察 (reflection)
- 行為の中の省察 (reflection-in-action)

ドナルド・A・ショーン (2007)「省察的実践とは何か - プロフェッショナルの行為と思考」(柳沢昌一・三輪建二監訳) 風書房

The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action, Donald A. Schon, Basic Books, Inc., 1983.

▶ 4

交換留学生と日本の地域社会

日本の地域社会における交換留学生インターンシップ

挑戦 - 実現可能か？

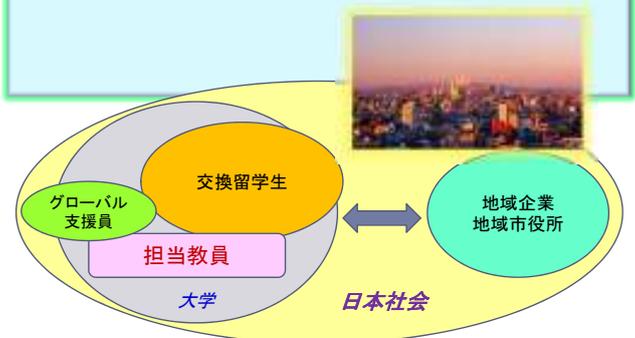


- \* 交換留学生インターンシップに関する先行研究
- \* 未発展



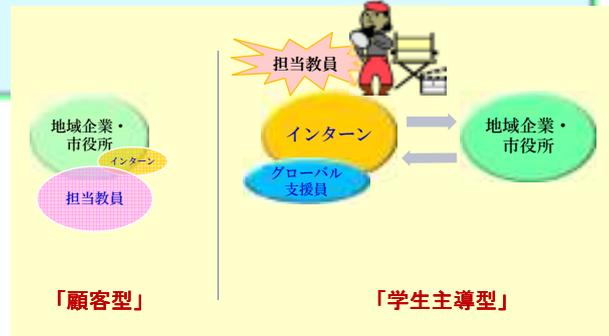
▶ 5

「グローバル化支援インターンシップ」  
交換留学生・担当教員・地域社会



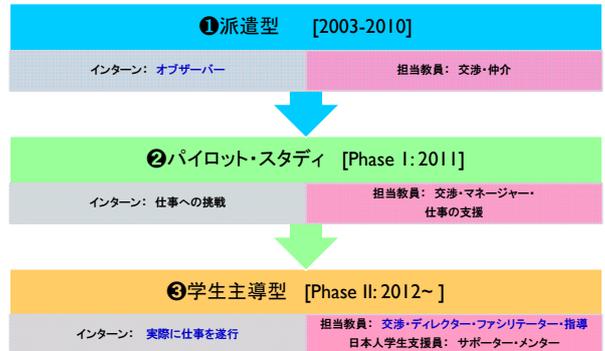
▶ 6

「顧客型」から「学生主導型」へ  
Paradigm Shift



▶ 7

「顧客型」から「学生主導型」へ  
留学生インターン・教員の役割



▶ 8

広島大学に在籍する学生・教職員

(2012年11月時点)

Enrollment	Number
Undergraduate Students 学部	10,828
Graduate Students 大学院	4,290
Administration / Teaching Staff	1,575 / 1,748 (2013 May)
スタッフ・教員	
International Students 留学生	1,081 (62 countries)



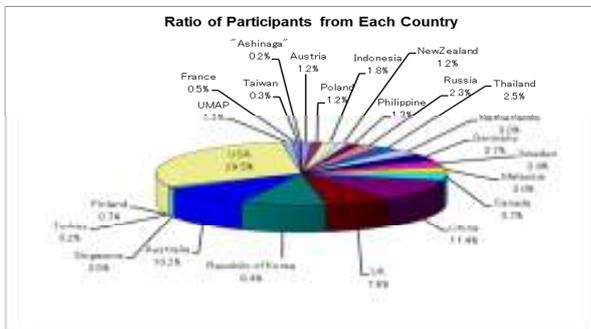
▶ 9

1) 「広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)」とは？  
Hiroshima University Study Abroad Program

- 毎年約40名の交換留学生在協定大学より参加
- 24ヶ国（北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジア）に渡る66大学とUSAC (University Studies Abroad Consortium)及びUMAP (University Mobility in Asia and the Pacific)の2コンソーシアムと協定を締結(2012年12月時点)
- プログラムの特色：留学生の英語能力と日本語能力に合わせて授業を受講、全学の授業の受講が可能
- 参加条件：英語または日本語で授業の受講が可能
- 参加目的：日本語能力の習得、日本文化・日本社会の理解  
単位を取得し自国の大学で単位互換  
\* 英語のみで勉学が可能なプログラム
- 学部生：単位取得の要件（1学期あたり10単位取得）
- 大学院生：単位取得または研究
- 留学期間：大多数が1年（2学期間）、数人が1学期間のみ

▶ 10

世界各国の協定大学からの参加者  
(1996 Oct. - 2012 Nov. Total: 596 students)

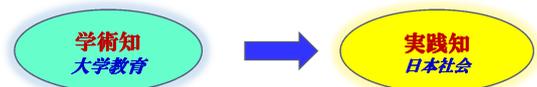


\*Ashinaga Ikuo Kai = Educational and Emotional Support for Orphans Worldwide.

▶ 11

HUSAプログラム留学生の使用言語

- \* 大多数が「英語で授業の受講が可能」で参加
- \* 約5~15%が「日本語で授業の受講が可能」で参加
- \* 英語・日本語の両言語が堪能な学生(数名)
- 日本語レベルの高い学生：インターンシップの機会



- 「グローバル化支援インターンシップ」(2012 Fall開講)
- 大学の国際教育と地域社会の相互支援体制の構築

▶ 12

これまでの交換留学生インターンシップ  
**HUSA Internship I & II (授業) [2003-2011]**  
 \* HUSA Program = Hiroshima University Study Abroad (HUSA) Program  
 広島大学短期交換留学プログラム

1) 「HUSAインターンシップ I: キャリア理論と実践」 16回の授業 (2単位)  
 “HUSA Internship I: Career Theory and Practice”  
 [準備コース] (2単位) 受講人数: 10人前後  
 \* 日本語レベル: 中級・上級 (レベル3,4,5)  
 \* 研修・自己発見・キャリア理論  
 \* 社会体験者講話+PBL協同学習 (各3回)

2) 「HUSAインターンシップ II: 実習」 “HUSA Internship II: Practicum”  
 [実習] (2単位) 受講人数: 10人前後  
 \* 日本語レベル: 上級 (原則レベル5) \* 実際は中級も派遣  
 \* 企業に2週間派遣(時期は通年で企業と調整) [8時間x10日=80時間]

派遣型インターンシップ

**「グローバル化支援インターンシップ」への変革**  
 2012年度 Fallより

・ プレゼンテーション導入  
 ・ グループディスカッション

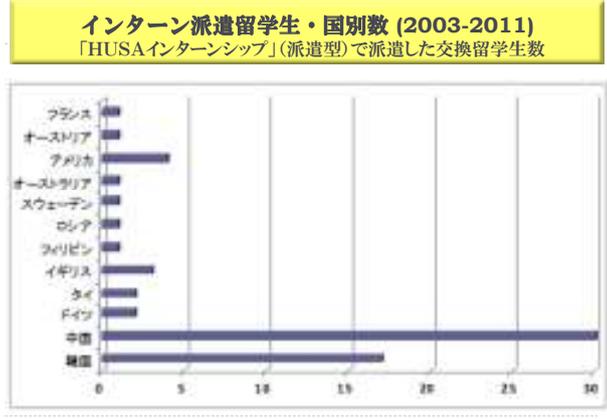
1) 「HUSAインターンシップ I: キャリア理論と実践」 (~2011)  
 “HUSA Internship I: Career Theory and Practice”

→ 「グローバル化支援インターンシップ I: キャリア理論と実践」 (2012~)  
 “Globalization Support Internship I: Career Theory and Practice”  
 1学期間 (秋学期)

2) 「HUSAインターンシップ II: 実習」 (~2011)  
 “HUSA Internship II: Practicum”

→ 「グローバル化支援インターンシップ II: 実習」 (2012~)  
 “Globalization Support Internship II: Practicum”  
 1学期間 (通年: 秋学期+春学期)

派遣型 (顧客型)  
 ↓  
 大学主導型 教員・学生



2) 理論的課題と実践 日本の実社会との接触

1. 日本人化とグローバル化 **日本人化?**

<外国人留学生の就職 - 日本企業が重要視する条件>

- ビジネスレベルの日本語能力、日本のビジネス慣習と価値観や企業風土を理解
- 日本人と異なる国際的感覚を生かし、文化の多様性を理解しグローバルに対応可能

<留学生の不安要因>

- ビジネス日本語能力の不足、日本企業の慣習、価値観、文化的障壁

神谷順子(2010)「日本における外国人留学生の就業に関する研究 - 大学・企業・行政との連携による就職支援の効果」『北海道大学学術論集』第143号, pp.67-91.  
 守屋貴司(2012)「日本企業の留学生などの外国人採用への一考察」『日本労働研究雑誌』特集「グローバル経営と人材育成」第623号, June, pp.29-36.

**日本社会・日本文化への適応 VS グローバル社会**  
 How “Exchange Students” can be located?

\* 文化的基軸は?  
 ◆ 留学生インターンの新しい知見・視点

2. 目標設定

1. 日本語能力を日本での就労に活かす
2. 日本社会と文化の理論的理解を実社会での実践に活かす
3. 外国人の知見・多様な文化的価値観をグローバル化に直面する日本の地域社会に活かす
4. 汎用的技能: チームワーク、リーダーシップ、課題発見、問題解決
5. 地域再生・地域活性化への貢献

### 3. エンパワーメント理論

- Shift 'Powerless Intern' → 'Empowered' Intern -

「強さ」に焦点

- ◆ 自己決定権・影響力
- ◆ 各個人の個性・各自の特性・価値観・必要性
- ◆ コミュニティと関わり生きる権利



#### ★弱点に焦点 - 依存的構造

不平等な力関係 - 社会構造

他者の力と地位を上げ、パワーレスの力の縮小化  
知識・資源・技術をマネジメントできない

▶ 19

### 意義のある仕事とは？

インターン

- チームの一員
- 「意義ある仕事」に従事

My opinion is counted!



▶ 20

### 4. 学生参加型授業

- ◆ 構造化された「知」の獲得が困難
- ◆ 高等教育の大衆化、情報化、知識社会化により

大学で教えられる学問体系のゆらぎ

天野郁夫 2004 「大学改革 - 秩序の崩壊と再編 -」 東京大学出版会

教員による一方的講義型の授業：知識の網羅と伝授が困難

↓  
学生が意欲的に取り組める学生参加型授業

- 高い教育効果と教育の生産性
- 活発な討論能力

安部ら (1998)

安部和厚、小笠原正明、西森敬之、細川敏幸、高橋伸幸、高橋直勝、大雄二、小林由子、山崎直子、大滝純司、和田大輔、佐藤公治、佐々木市夫、寺沢浩一 (1998) 「大学における学生参加型授業の開発」『高等教育ジャーナル - 高等教育と生涯学習 -』第4号, pp.45-65.

▶ 21

### 学生参加型授業がもたらす教育効果

- コミュニケーション能力
  - グループ作業により、活発な討論能力・決断力・リーダーシップ
  - 協調性・共同作業能力・相互反応(interaction)・相互影響(group dynamics)・協調性
  - 責任感・人間理解・社会性の把握・能動的行動力・チームワーク能力
  - 知識発見・自己発見・自己能力開発
- \* 学生が自ら知識を発見し、他の学生の多様性から多様な幅広い視野の知識の発見

安部ら (1998)

▶ 22

### 5. 期待マネジメント

- 2012 Fall より導入 (授業開始時に試験を行う)

#### 1) 「インターンシップ・プレースメントテスト」

- A. 日本語能力・ビジネス実務マナー・ビジネス電話実務
- B. 「面接試験」

自己紹介・電話応対テスト (実際の設定)

中間テスト：電話応対テスト (Paper Test & インタビュー)

- 2) 「社会体験者講話」 & PBL協同学習
- 3) グループ・ディスカッション (全学公開で日本人学生も募集)

<導入の意義>

- 自分の実力を知る
- 現場に必要な力のレベルを知る
- “Dream Internship” への期待をなくす

No Dream Internship!

▶ 23

### Group Discussion (「グローバル化支援インターンシップ I」)

<目標>

- 実際の採用試験で行われるグループ・ディスカッションを体験
  - 日本語で本格的な面接試験を日本人学生と体験
  - 設定された課題を理解し取り組む体験
- \* 担当教員・企業講師・市役所職員が審査員を行う  
\* 実施日： 2012年7月13日/2012年12月14日/2013年4月12日 14:30-16:15  
\* テーマ：「グローバル人材」・「地域社会のグローバル化への対応策」等

<スケジュール> (グループ1 & 2)

1. 14:35 クラス内諸連絡 (5分 K308)
2. 14:40 グループディスカッションのルール説明 (10分)
3. 14:50 個人で課題整理 (15分)
4. 15:05 グループ討議 (30分)
5. 15:35 各グループ発表&質疑応答 (10分)
6. 15:45 講師から学生へフィードバック (20分)
7. 16:05 質疑応答 (10分)

\* 各グループ  
HUSA留学生+日本人学生 (合計5~8人) で構成  
グループを2つ構成 (学部生&大学院生)

\* 学生は率先して議事進行役を決定、協力して討論を進行、異なる意見をまとめつつ議論を進める、リーダーシップ発揮、協力して結論に導く (積極的な取り組み)



▶ 24

Group Discussion (「グローバル化支援インターンシップI」)  
風景

- グループ討議
- プレゼンテーション
- 社会人による評価・フィードバック



25

実習① 地域企業の商品に関する国際的市場調査  
2012-2013

「グローバル化支援研究プロジェクト」	プロジェクトによる教育成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>企業との会議</li> <li>地域企業の商品に関する市場調査</li> <li>議事録作成</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの現場で日本語を使用</li> <li>日本社会での仕事における儀礼</li> <li>理論的知識の実社会における応用</li> <li>チームワーク</li> <li>リーダーシップ</li> </ul> 

26

地域企業との仕事の流れ1 - 調査内容決定まで

- 提案**
  - 「グローバル化支援研究プロジェクト」研究テーマの提案 - 「中国における市場開拓の可能性に関する市場調査」
  - 第一回 地域企業との会議 (担当教員・グローバル支援員・企業)
- 日程決定**
  - 研究プロジェクトのテーマの決定(担当教員・インターン・グローバル支援員・企業)
  - 調査対象と調査規模、調査結果の発表の日程を決定
- 準備**
  - 授業において他のインターンに経過を報告。情報の共有と協力システムの構築。
  - アンケート調査票作成に向けた準備を開始。
- 調査票作成**
  - 各自がアンケート調査票の設問を考案し、インターンが調整。
  - 調査規模の変更について企業と相談し決定。
  - チームが提案をまとめ、アンケート調査票の第一案を完成させ企業に提出。
- 会議**
  - 企業との会議でアンケート調査票の第一案について検討(担当教員・インターン・グローバル支援員・企業)。
  - 会議での話し合いに基づきアンケート調査票改定案を作成し企業に提出。

27

地域企業との仕事の流れ2 - アンケート調査分析

- アンケート調査**
  - 各インターンがアンケート調査を開始。
  - 各インターンの記録を提出。
- 集計**
  - 授業において集計の方法について検討。グローバル支援員も参加。
  - 各自集計を開始し、チームが全体をまとめる。
- 中間発表会**
  - 企業においてアンケート調査結果の中間発表。助言・提案をいただく。
  - 最終発表に向け、集計と調査の分析を進める。
- 最終発表会**
  - 企業において市場調査の最終発表を行う。
  - 市場調査全体と分析結果について検討。
- フィードバックと省察**
  - 地域企業との研究プロジェクト型インターンシップについて省察。
  - インターンの評価と今後の改善策の検討。

28

実習② 江田島市「国際交流歴史ツアー」  
国際交流企画コーディネーター  
広島大学短期交換留学プログラム留学生のための  
地域との国際交流ツアー企画

- 提案と会議**
  - 現地訪問&市役所と会議(担当教員と支援員)
  - 訪問場所の調査と旅行日程の作成
  - 広報ポスターと申込用紙の作成
- プランニング**
  - 市役所と企画会議&モニターツアー
  - 訪問予定場所との連絡と調整
  - バス会社との調整 - 旅行行程確認
- 準備と連絡**
  - 参加者の確認
  - 地域住民との国際交流会議の準備
  - 訪問地の情報資料の準備(日本語と英語)

29

Visiting Site (I) 海上自衛隊第1術科学校 - 江田島  
First Service School / Officer Candidate School (present)

- Etajima - site of the Imperial Japanese Academy (1888-1945)
- One of the three greatest naval academies of the leading naval powers in the world until the end of World War II (Annapolis for the U.S. Navy, Dartmouth for the British Royal Navy and Etajima for the Imperial Japanese Navy).



30

Visiting Site (2) いちご狩り  
実現のためのインターンの仕事は？



- いちご狩りの場所の調査
- 訪問可能時間
- 価格
- ディスカウント
- 滞在可能時間
- 持ち帰り？

インターンによる  
調査と計画が必要

「江田島国際交流歴史ツアー」  
江田島市との国際交流会議

日時：2013年4月21日（日）  
時間：13:40-15:15 交流会（13:00-13:40 夢来来交流ゾーンで昼食）  
場所：夢来来 交流ゾーン（江田島市沖美町）

参加者：

1) 広島大学からの参加者：合計 24名

広島大学短期交換留学プログラム (HUSA) 留学生 21名  
広島大学国際センター教員 2名  
グローバル支援員 1名

2) 江田島市からの参加者：合計 14名

江田島市職員（総務部交流促進課・商工観光課交流定住促進室）4名  
江田島市への移住者（田舎暮らしを楽しもう会）10名  
司会・進行：「グローバル化支援インターンシップ」担当教員 恒松  
通訳：各グループ（5グループ）に一人（留学生・教員）

▶ 32

江田島市との国際交流会議

異文化理解についての留学生インターンの体験の発表(全体) (13:40-14:00)

恒松直美(担当教員)ご挨拶 (13:40-13:45)  
Yang, Qian (13:45-13:50) Li, Xiuyan (13:50-13:55)  
質疑応答 (13:55-14:05)

留学生インターンの  
特質を生かす  
交流会内容  
アレンジ

各グループでのディスカッション(各グループで行う) (14:10-14:55)

各自でまず思索 (14:10-14:15) 各グループで討論 (14:15-14:55)

＜ディスカッションのテーマ＞

- 留学生と江田島移住者との共通点
- 外国人が江田島に移住した場合、どのような支援体制が必要か
- カルチャーショック(留学生の日本留学での体験や日本人に対して感じていること、移住者の方の江田島移住における体験)
- \*各グループを6~8名で構成(留学生・教員・江田島市役所職員・移住者・グローバル支援員)
- \*各グループでインターンが司会・進行を担当。日本語が上級でない留学生には通訳者が英語に通訳(各グループの通訳担当を指定)

各グループの感想の発表(全体) (14:55-15:15)

各グループより代表が感想を発表  
江田島について聞きたいことがあれば質問

多様な文化・言語能力  
協力すれば有意義な  
国際交流会

▶ 33

Visiting Site (3) 「国際交流会議」  
「留学生と移住者の共通点・カルチャーショック体験・外国人移住の支援策」



▶ 34

国際的な体験学習

国際的体験学習の必要性

- 外国語でコミュニケーションし、仕事に挑戦することによるエンパワーメント
- 'comfort zones' 快適ゾーンから出る
- 幅広い状況における予測不可能な状況
- 地域生と国際性

リフレクション



正式な学問としての学び

統合

異文化での仕事体験

▶ 35

実現の鍵

交換留学生向け「グローバル化支援インターンシップ」

- 1) 総括的監督(担当教員)
- 2) 日本語能力と日本文化・社会の理解
- 3) 留学生のグローバルな視点
- 4) 留学生インターン間の協力  
情報・仕事・経験の共有
- 5) 目標設定と評価



日本語能力  
日本文化・社会の  
理解

留学生  
インターン  
の協力

グローバルな  
視点

▶ 36